付属資料

福岡県

福岡県における観光の現状と課題

令和４年３月２３日

福岡県における観光の現状と課題

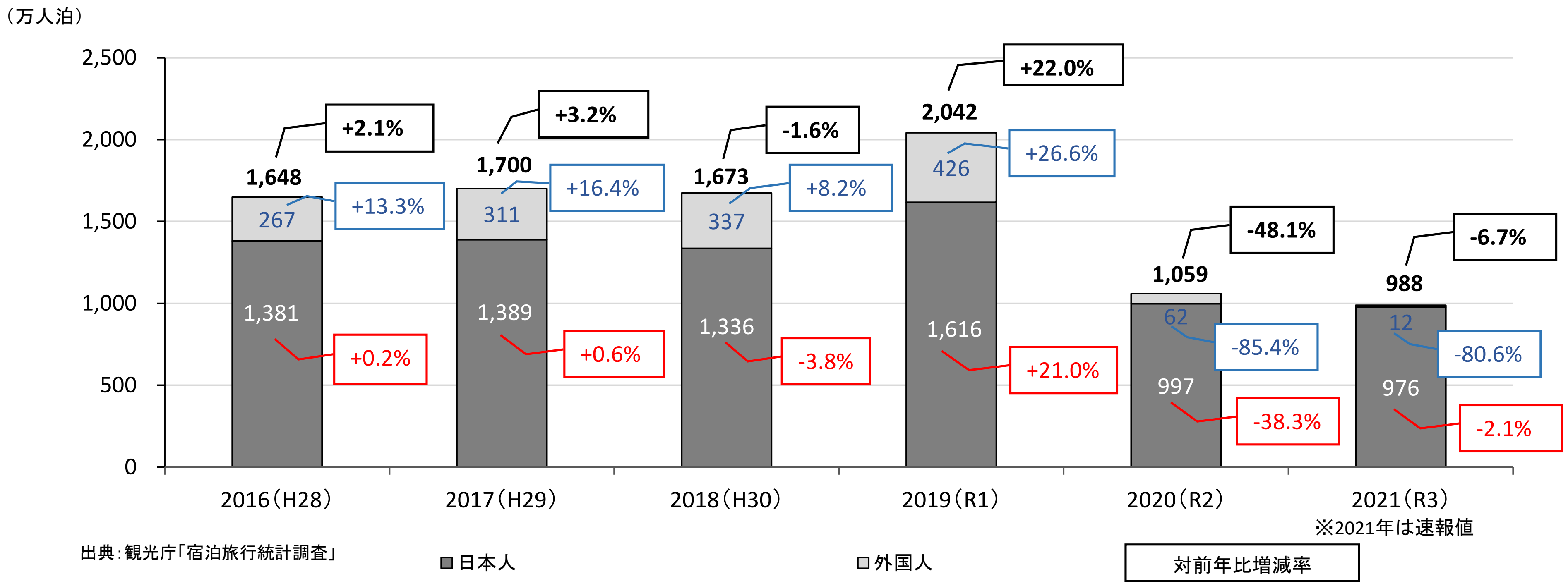
● 宿泊者数の状況ついて_①（延べ宿泊者数の推移〔年単位〕）

・本県の延べ宿泊者数は、2019年は前年比22.0%増の2,042万人となり、初めて2,000万人を突破したが、2020年１月以降の新型コロナウイルス感染症の拡大により、2020年は前年比48.1%減の1,059万人、2021年は前年比6.7%減の988万人となり激減している。

・ また、外国人の延べ宿泊者数は、2019年は前年比26.6%増の426万人となり、堅調に増加していたが、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う海外からの入国制限等の影響により、2020年は前年比85.4%減の62万人、2021年は前年比80.6%減の12万人となり激減している。

・ この新型コロナウイルス感染症の影響により激減した国内外からの観光客を、コロナ禍以前の状態に戻すための取組が喫緊の課題。

本県における延べ宿泊者数の推移



※2021年は速報値

出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」

福岡県における観光の現状と課題

● 宿泊者数の状況ついて_②（延べ宿泊者数の推移〔月単位〕）

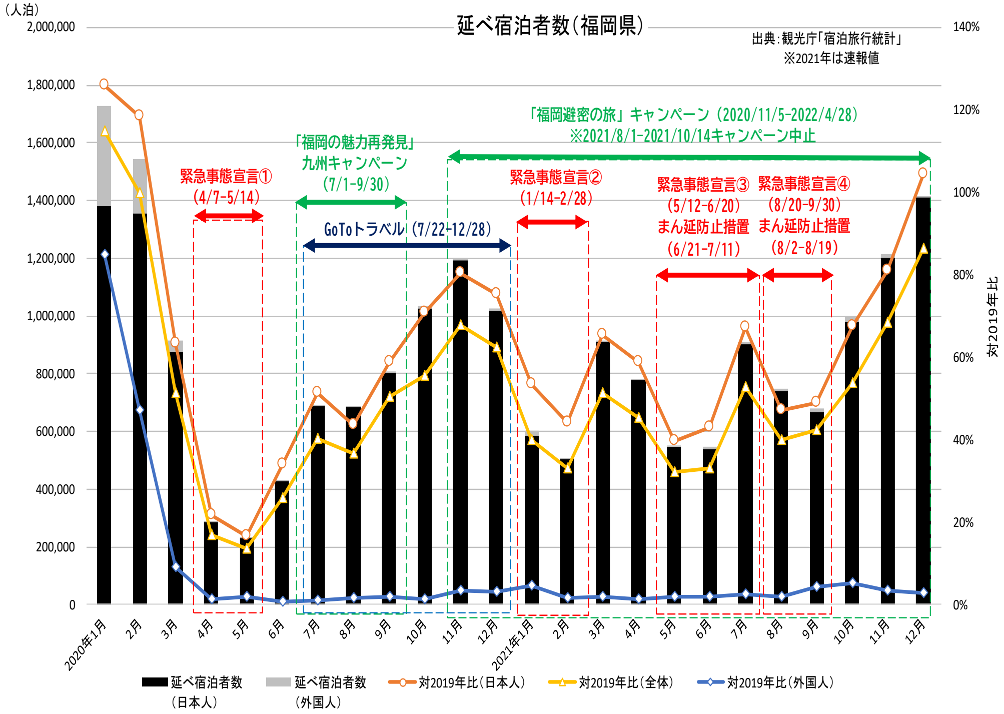
・本県の延べ宿泊者数は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、2020年3月から大きく減少し、一番のピークは１回目の緊急事態宣言発出後の2020年5月で、対前年比86%減となっている。

・2020年については、１回目の緊急事態宣言が解除された6月以降は徐々に回復し、日本人の延べ宿泊者数は11月は前年比20%減まで回復。

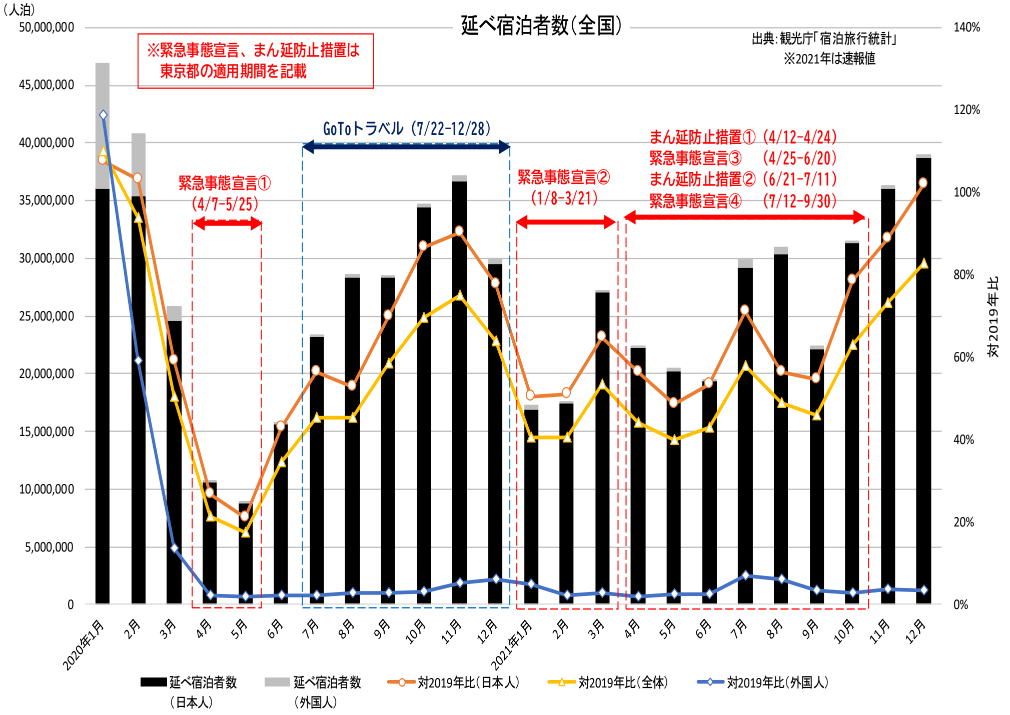
・2021年については、緊急事態宣言やまん延防止措置期間中は、対2019年比で大きく減少しているものの、2020年と比較すると減少幅が小さくなっている。また、緊急事態宣言解除後の10月以降は徐々に回復し、12月の日本人の延べ宿泊者数は2019年比4%増まで回復している。

・ 全国の状況と比較すると、2019年比の減少幅が大きい月が福岡県の方が多い。

【福岡県】延べ宿泊者数の推移



【全国】延べ宿泊者数の推移



福岡県における観光の現状と課題

● 外国人入国者数について

・本県の外国人入国者数については、2017年までは20%超の伸びで順調に拡大してきたが、2018年については、豪雨災害や韓国経済の低迷による旅行需要の低下、中国からの格安クルーズ船の寄港数が減少したこと等の要因により、前年比3%の増と伸びが鈍化している。

・2019年については、日韓情勢の変化により韓国からの入国者が大幅に減少したこと等により、対前年比で13%の減となった。また、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う海外からの入国制限等の影響により、2020年は対前年比で88%の減、2021年は対前年比で98%の減となっている。

・外国人入国者数が減少に転じる以前の、2018年における国・地域別の構成比を見ると、全国と比較して、韓国、クルーズ船客の割合が高い一方で、中国、欧米豪、東南アジアの割合は低くなっている。

・この偏在性を解消するため、中国、欧米豪、東南アジアをターゲットとした情報発信や国際航空路線の誘致等、外国人旅行者の誘客を促進する取組が必要である。

外国人入国者数の推移及び構成比（福岡県）

（単位：万人）

国籍・地域	2016年（H28）	2017年（H29）	前年比伸長率	2018年（H30）	前年比伸長率	構成比	2019年（R1）	前年比伸長率	2020年（R2）	前年比伸長率	2021年（R3）	前年比伸長率
合計	260	319	23%	328	3%	100%	285	−13%	33	−88%	0.6	−98%
通常入国	181	250	38%	270	8%	82%	235	−13%	29	−88%	0.6	−98%
（主な内訳）												
韓国	104	165	59%	171	4%	52%	122	−29%	12	−90%	0.2	−99%
中国	16	18	11%	22	20%	7%	23	6%	3	−88%	0.0	−99%
台湾	26	29	13%	33	12%	10%	35	7%	5	−86%	0.0	−99%
香港	14	16	13%	20	26%	6%	22	10%	3	−85%	0.0	−100%
東南アジア	12	11	−1%	13	10%	4%	20	59%	4	−80%	0.3	−93%
ヨーロッパ	3	4	9%	4	12%	1%	5	26%	1	−89%	0.0	−98%
米国	2	2	8%	3	19%	1%	3	10%	0	−85%	0.0	−98%
オーストラリア	1	1	6%	1	14%	0%	1	21%	0	−87%	0.0	−95%
クルーズ船	79	69	−12%	58	−16%	18%	49	85%	4	−91%	0.0	−100%

＊出典：法務省「出入国管理統計」

外国人入国者数の推移及び構成比（全国）

（単位：万人）

国籍・地域	2016年（H28）	2017年（H29）	前年比伸長率	2018年（H30）	前年比伸長率	構成比	2019年（R1）	前年比伸長率	2020年（R2）	前年比伸長率	2021年（R3）	前年比伸長率
合計	2,516	2,987	19%	3,244	9%	100%	3,321	2%	443	−87%	35	−92%
通常入国	2,322	2,743	18%	3,010	10%	93%	3,119	4%	431	−86%	35	−92%
（主な内訳）												
韓国	535	741	38%	782	6%	24%	588	−24%	55	−91%	4	−93%
中国	517	576	11%	693	20%	21%	848	22%	107	−87%	6	−94%
台湾	402	435	8%	454	4%	14%	467	3%	69	−85%	1	−99%
香港	175	213	22%	211	−1%	7%	218	3%	32	−85%	0	−100%
東南アジア	268	309	15%	350	13%	11%	356	2%	76	−79%	6	−92%
ヨーロッパ	150	162	8%	182	12%	6%	209	15%	27	−87%	6	−78%
米国	127	140	10%	155	11%	5%	175	13%	23	−87%	3	−87%
オーストラリア	44	49	12%	55	11%	2%	62	13%	14	−77%	0	−100%
クルーズ船	194	244	26%	234	−4%	7%	203	−13%	12	−94%	0	−100%

＊出典：法務省「出入国管理統計」

福岡県における観光の現状と課題

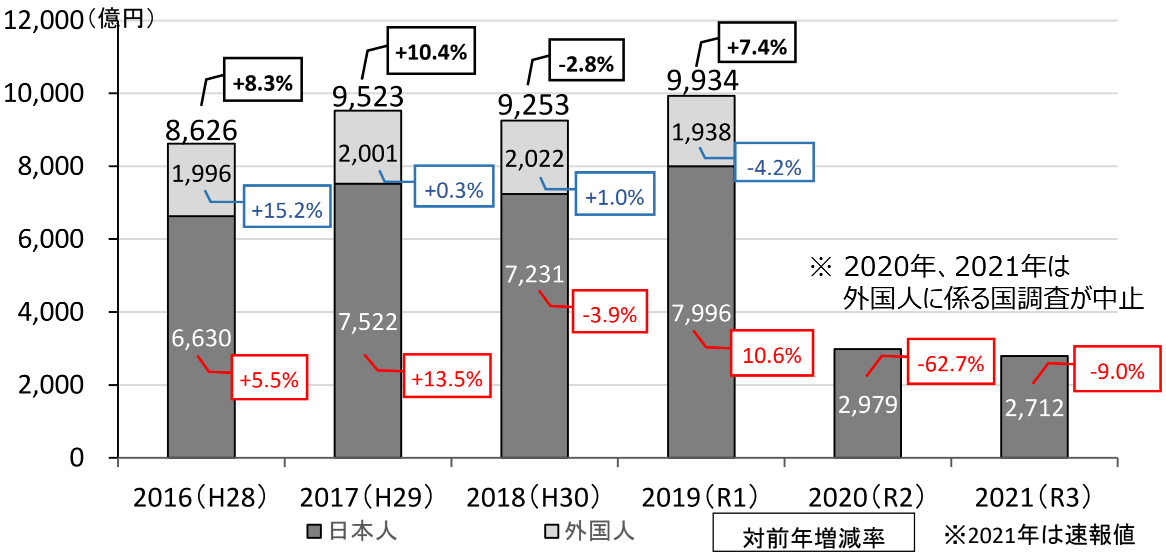
旅行消費額について

・本県の旅行消費額全体は、2016年から２ヶ年は10%に近い伸びで拡大してきた。2018年は前年比2.8%の減となったものの、2019年は、前年比7.4%の増となっている。しかしながら、日本人旅行者の消費額は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、2020年は前年比62.7%の減、2021年は前年比9.0%の減となり大幅に減少している。

・新型コロナウイルスの影響を受ける以前の、2019年における訪日外国人旅行者数が多い主要20か国の旅行消費額をみると、全国の旅行消費額は大きいにも関わらず、全国に占める本県の割合が比較的低い国が存在しており、これらの国は日本における市場規模が大きい一方で、本県に旅行者を十分に取り込めていない状況となっている。

・本県における旅行消費額をさらに増大させるとともに、特定の国・地域からのインバウンドに過度に依存しない構造への転換を図るため、客観的データに基づくターゲティングと戦略的な誘客を行うことが必要である。

本県の旅行消費額の推移



出典：法務省「出入国管理統計」及び観光庁「訪日外国人消費動向調査」基に福岡県算出（訪日外国人）、
観光庁「旅行・観光消費動向調査」（国内）

訪日外国人（通常入国）の旅行消費額（2019年）

	全国		福岡県		旅行消費額福岡県割合
	旅行消費額（億円）	消費単価（千円）	旅行消費額（億円）	消費単価（千円）	
中　国	17,016	213	361	133	2.1%
台　湾	5,452	118	214	59	3.9%
韓　国	4,240	76	581	44	13.7%
香　港	3,512	156	223	87	6.3%
米　国	3,222	189	35	69	1.1%
タ　イ	1,731	131	61	96	3.5%
オーストラリア	1,514	248	6	50	0.4%
英国	996	241	13	69	1.3%
ベトナム	875	177	63	237	7.2%
シンガポール	851	174	16	62	1.9%
フランス	797	237	8	63	1.0%
カナダ	667	182	4	37	0.6%
フィリピン	658	108	32	85	4.9%
マレーシア	663	133	33	79	5.0%
インドネシア	538	131	4	46	0.7%
ドイツ	462	201	6	65	1.3%
イタリア	323	199	2	59	0.6%
スペイン	287	221	4	134	1.4%
インド	273	157	0	20	0.0%
ロシア	217	183	0	17	0.0%
その他	3,035	222	46	71	1.5%
計	47,331	159	1,713	66	3.6%

出典：観光庁「訪日外国人消費動向調査」基に福岡県推計

福岡県における観光の現状と課題

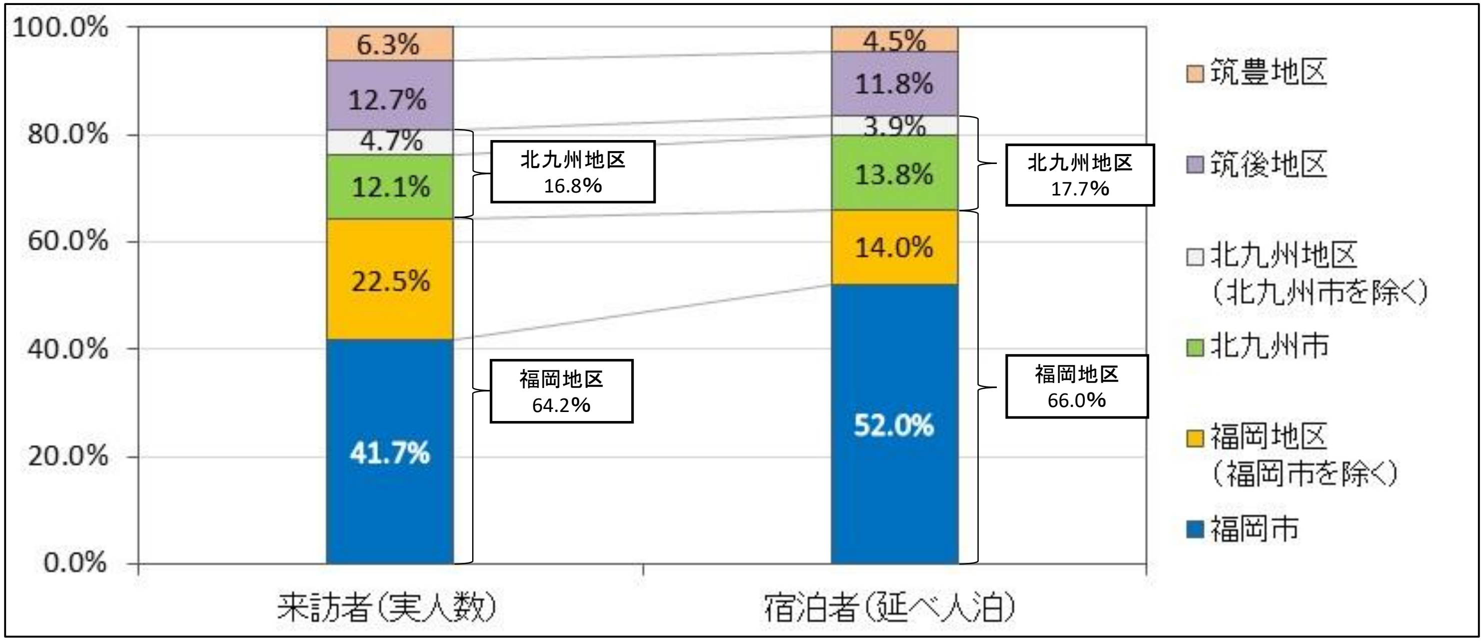
観光客の県内各地への訪問状況について

・県内の観光客の分布状況を地区別で見ると、来訪者については福岡地区64.2%（うち福岡市41.7%、福岡市を除く福岡地区22.5%）と北九州地区16.8%（北九州市12.1%、北九州市を除く北九州地区4.7%）と両地区で81.0%を占めている状況となっている。

・また、宿泊者についても、福岡地区66.0%（うち福岡市52.0%、福岡市を除く福岡地区14.0%）と北九州地区17.7%（北九州市13.8%、北九州市を除く北九州地区3.9%）と両地区で83.7%を占めている状況となっている。

・来訪者、宿泊者ともに、特に福岡市に集中している状況となっていることから、県内各地域に観光需要を取り込み、地域経済を活性化させるためには、来訪者及び宿泊者を県内各地へ誘致する取組みが必要である。

観光客の県内各地における分布状況



出典：福岡県「観光客の周遊等の状況に関する調査」（2021年2月）

福岡県における観光の現状と課題

宿泊施設の状況について

・県内の宿泊施設数は新型コロナウイルスの影響を受ける以前の2019年度までは順調に増加していたが、2020年度は対前年比8%の減となっている。また、2021年度末時点では1,603施設あり、全体の59%が政令市に集中。客室数でみると、全体の76%が政令市に集中している状況となっている。

・新型コロナウイルスの影響をうける以前の、本県の旅館業法許可施設における2019年の客室稼働率は71.7%であり、東京都79.5%、大阪府79.0%に次いで全国３位と非常に高い水準であった。特に福岡市の稼働率は79.6%と県全域の稼働率を押し上げていたものと推察。しかしながら、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、2020年は35.9%、2021年は33.7%と大幅に減少している。

・宿泊産業は地域の雇用と観光産業の基盤を支える重要な産業であることから、旅行者のニーズを満たすハード・ソフト両面での対策や、生産性向上を通じた競争力の強化が必要。

県内宿泊施設･客室数の推移

	2017年度（H29年度）		2018年度（H30年度）		2019年度（R1年度）		2020年度（R2年度）					
	施設数	客室数	施設数	客室数	施設数	客室数	施設数	前年比伸長率	構成比	客室数	前年比伸長率	構成比
福岡県	1,356	51,924	1,600	55,188	1,748	59,632	1,603	-8%	100%	61,879	4%	100%
福岡市	471	28,139	718	31,211	912	35,582	768	-16%	48%	37,648	6%	61%
北九州市	185	9,634	183	9,604	175	9,386	177	1%	11%	9,500	1%	15%
久留米市	87	2,532	74	2,387	76	2,748	75	-1%	5%	2,646	-4%	4%
その他	613	11,619	625	11,986	585	11,916	583	0%	36%	12,085	1%	20%

出典：厚生労働省「衛生行政報告例」

客室稼働率の推移（2019年における上位10都道府県）

	2017（H29）	2018（H30）	2019（R1）	2020（R2）	2021（R3）
全　国	60.5%	61.2%	62.7%	34.3%	34.5%
東京都	80.0%	80.0%	79.5%	33.6%	35.7%
大阪府	82.4%	79.6%	79.0%	27.8%	27.3%
福岡県（全域）	72.8%	72.2%	71.7%	35.9%	33.7%
福岡県（福岡市）	84.0%	82.1%	79.6%	34.8%	33.6%
千葉県	67.3%	68.6%	70.6%	36.5%	36.5%
神奈川県	64.8%	65.6%	70.4%	42.8%	42.3%
埼玉県	65.5%	65.4%	70.2%	44.8%	43.6%
広島県	65.7%	66.2%	69.3%	40.8%	37.6%
愛知県	71.3%	70.1%	68.8%	36.8%	38.9%
京都府	64.9%	64.7%	66.3%	27.6%	25.5%
沖縄県	65.8%	63.7%	64.7%	30.2%	26.5%

出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」

※2021年は速報値